

第1章 計画の概要

1) 計画の目的

前期計画の各種取組や環境変化等を踏まえた自転車施策の推進による「自転車のまち宇都宮」の更なる推進

2) 計画の期間

令和8年度から令和12年度までの5年間

3) 計画の位置付け

- ・「自転車活用推進法」第11条に規定する市町村計画
- ・第6次宇都宮市総合基本計画の基本施策を実現するための計画
- ・SDGsへの貢献（目標3・目標11・目標13）



第2章 現状と課題

1) 前期計画の取組状況

成果指標の達成状況

	指標	基準値	実績値（R7）	中間目標値（R7）
基盤づくり	自転車走行空間整備の満足度	19.3%	20.0%	27.7%
	市内駐輪場の利用者数	8,436人/日	8,452人/日	9,054人/日
意識向上	自転車に関連する交通事故件数	484件/年	372件/年	270件/年
	健康のために意識してから身体を動かす成人の割合	男 56.2% 女 48.3%	男 55.4% 女 51.2%	男 63.0% 女 60.0%
機会づくり	自転車競技・サイクルイベントによる経済波及効果	28億円/年	35.8億円/年	28.5億円/年
	「自転車のまち」の認知度	11.4%	13.0%	13.2%

各施策の評価

柱	取組状況
基盤づくり	・自転車通行空間の整備延長は順調に延びているが、市民満足度は低調。また、視認性が低下した路面標示への対応が必要 ・ライトライン停留場付近の駐輪場を13か所整備するなど、計画どおりに整備。想定以上の利用率となっている。
意識向上	・令和6年については、前年と比較して事故件数が増加。自転車ユーザーに非がない事故が増加している。 ・健康ポイント事業の促進などにより、健康のために意識して体を動かす成人の割合は年々増加傾向にある。
機会づくり	・宇都宮ジャパンカップについては、令和6年度に過去最高の経済波及効果となるなど、計画以上の成果となっている。 ・PRの充実を図られたが、自転車のまち宇都宮の認知度は年度ごとにばらつきがある。

2) 市民アンケート結果

自転車の利用促進

- 自転車の利用促進には、安全安心な通行整備や駐輪場整備、自動車ドライバーから自転車利用者への配慮増進、シェアリングモビリティの拡大などが効果的である。

自転車の安全利用

- 通行空間の質が高いほど車道通行の割合は増加する傾向にあり、自動車ドライバーの不安軽減にも寄与する。

自転車のまち推進

- 市民に自転車のまちと認識されていない。
- 認識向上には、PR、通行空間整備、自転車通勤推進が効果的である。

4) 課題の総括

基盤づくり

- 整備延長の拡大だけでなく、質の高い通行空間整備が必要
- 視認性が低下して路面標示への対応が必要
- 既存駐輪場の利便性向上が必要
- ウォーカブルなまちづくりと連動した整備が必要
- 公共交通との乗り継ぎ促進が必要
- シェアリングモビリティの拡大が必要

意識向上

- 自転車利用者以外へのルール・マナーの周知が必要
- ウォーカブルなまちづくりを踏まえた歩行者の安全確保が必要
- 自転車通勤推進など日常利用の促進が必要

機会づくり

- ジャパンカップ以外のサイクルイベントの充実が必要
- かわまちづくり計画を活用した広域的なサイクルツーリズムが必要
- 新たな地域資源（アークタウン宇都宮、北西部地域体育施設）を活用した魅力向上が必要
- 「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向けたPRの強化が必要

第3章 後期計画の方向性

課題を踏まえ、後期計画に向けた3つのテーマと8つのポイントを整理しました。

テーマ	ポイント
つなげる まちづくりを支える 自転車利用環境整備	①まちづくりの進展に対応した自転車利用環境の整備
	②自転車通行空間の質の向上
	③良好な自転車通行空間の持続的な確保
	④公共交通との更なる乗継強化に向けた自転車利用環境の整備
みらいへ 自転車利用意識の 更なる向上	⑤歩行者・自転車・自動車それぞれに対する交通ルールやマナーの周知・啓発
	⑥自転車を活用した脱炭素型ライフスタイル・ワークスタイルの推進
自転車の輪 自転車と地域資源の 連携による魅力向上	⑦地域資源と自転車の連携・活用による更なる誘客促進
	⑧「自転車のまち宇都宮」のPR強化

第4章 計画の基本方針

1) 将来像

後期計画に向けたテーマおよびポイントを踏まえ、計画の将来像を以下のとおり設定します。

自転車で人と公共交通とまちをつなげる

NCCの更なる形成とみらいへに向けた
自転車の輪を広げ、誰もが健康で便利に楽しめる
「自転車のまち宇都宮」の実現

NCCの更なる推進に向けて、ウォーカブルなまちづくりの推進や公共交通ネットワークの充実など、まちと暮らしが大きく変わる転換期を迎える中、まちづくりの進展と連携した自転車施策・事業の充実を図り、歩く・乗る・集うが調和した誰もが健康で便利に楽しめる「自転車のまち宇都宮」を実現します。



2) 基本目標

後期計画に向けたテーマおよびポイントを踏まえ、計画の柱および基本目標を以下のとおり設定します。

柱	目標
つなげる まちづくりを支える 自転車利用環境整備	歩行者・自転車が安全・快適に移動できる機能的で質の高い通行環境の実現
	公共交通と連携し公共交通ネットワークを補完する利便性の高い自転車利用環境の形成
みらいへ 自転車利用意識の更なる向上	歩行者・自転車利用者・自動車運転者それぞれの安全意識の高揚
	自転車の日常利用促進による脱炭素化と健康増進
自転車の輪 自転車と地域資源の 連携による魅力向上	自転車と地域資源の連携活用による自転車を楽しむ多様な機会の提供
	プロモーションの推進強化と自転車の輪の形成

第5章 施策事業一覧・指標

柱	目標	施策	事業	分類	重点	アウトプット指標	アウトカム指標
つなげる	歩行者・自転車が安全・快適に移動できる機能的で質の高い通行環境の実現	安全な通行環境の整備	自転車通行空間等の新設整備	拡充	◎	○自転車走行空間の整備延長（総延長） 現状(R7) 93.2km ➡ 目標値(R12) 123.3km	○自転車走行空間整備の市民満足度 現状(R7) 20.0% ➡ 目標値(R12) 36.0%
			既整備路線における質の高い自転車通行空間の再整備	新規	◎		
			生活道路における安全な通行環境整備	新規			
		自転車ネットワーク路線の維持管理	既整備における自転車通行空間の計画的な維持管理	拡充			
			走行支障物件の撤去指導	継続			
			路上駐停車対策の検討	新規			
	公共交通と連携し公共交通ネットワークを補完する利便性の高い自転車利用環境の形成	公共交通との乗継強化に向けた自転車利用環境の整備	鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営	継続		○交通結節点の駐輪場整備箇所数 現状(R7) 72箇所 ➡ 目標値(R12) 85箇所	○駐輪場整備の市民満足度 現状(R7) 26.2% ➡ 目標値(R12) 37%
			JR宇都宮駅西口周辺における駐輪場の再整備検討	継続			
			ライトライン停留場付近の駐輪場環境の向上	継続	◎		
			ライトライン駅西側を見据えた停留場付近の駐輪機能の検討	新規			
			路線バス停留所付近の駐輪場整備	継続	◎		
			モビリティハブの設置	新規			
			自転車放置防止対策	継続			
			シェアリングモビリティの普及促進	継続			
みらいへ	歩行者・自転車利用者・自動車運転者それぞれの安全意識の高揚	自転車等の交通ルール・マナー等の周知啓発	学校やプロスポーツチーム、民間企業等と連携した交通安全教室の開催	継続	◎	○自転車安全利用教室の開催数 現状(R7) 115回／年 ➡ 目標値(R12) 150回／年	○自転車事故発生件数 現状(R7) 372件／年 ➡ 目標値(R12) 270件／年
			心身の発達段階に応じた交通安全教室の開催	継続	◎		
			市公式SNS等を活用した自転車利用者への効果的な啓発の実施	新規			
			自転車安全利用のための街頭指導の実施	継続			
			自転車ヘルメットの着用の周知・啓発	継続			
			自転車損害賠償責任保険等の周知・啓発	継続			
		災害時における自転車の活用	(仮称)「宇都宮市自転車安全利用推進事業所」の認定事業の実施	新規			
			災害対応職員の参集手段としての自転車利用	継続			
	自転車の日常利用促進による脱炭素化と健康増進	自転車通勤などの日常的な利用の促進	災害時におけるシェアリングモビリティの活用	新規		○出前講座「自転車通勤のススメ」の開催回数 現状(R7) 0件／年 ➡ 目標値(R12) 12件／年	○通勤目的の自転車分担率 現状(R7) 12.0% ➡ 目標値(R12) 20%
			企業等と連携した自転車通勤の促進	拡充	◎		
		自転車利用を通じた市民の環境配慮行動の促進	(仮称)「宇都宮市自転車安全利用推進事業所」の認定事業の実施【再掲】	新規			
			みやエコ・アクション・ポイント事業を活用した自転車による環境配慮行動の促進	新規			
		自転車を活用した市民の健康づくりの促進	企業等と連携した自転車通勤の促進【再掲】	拡充	◎		
			健康ポイント事業等を活用した自転車による健康増進	継続			
自転車の輪	自転車と地域資源の連携活用による自転車を楽しむ多様な機会の提供	サイクルスポーツの振興	プロスポーツチーム等と連携した介護予防教室	継続		○体験型サイクルイベント開催数 現状(R7) 29回／年 ➡ 目標値(R12) 30回／年	○体験型サイクルイベント参加者数 現状(R7) 4,737人／年 ➡ 目標値(R12) 5,000人／年
			企業等と連携した自転車通勤の促進【再掲】	拡充	◎		
			宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース等の開催	継続	◎		
			宇都宮ジャパンカップ等における参加型レース・イベントの開催	拡充	◎		
		サイクルツーリズムの推進	様々なサイクルスポーツの利用環境の整備	継続			
			民間主体のサイクルレース・イベントの誘致・開催	継続			
			市内観光地等における自転車での広域的な誘客促進	拡充			
			自転車マップ等の作成・配布	継続			
	プロモーションの推進強化と更なる市民のシビックプライド・自転車の輪の形成	自転車のまち宇都宮のPR強化	鬼怒川サイクリングルート沿川のリバースポット整備	新規		○市の取組に関する情報発信・周知啓発回数 現状(R7) 408件／年 ➡ 目標値(R12) 590件／年	○「自転車のまち」のPRへの市民満足度 現状(R7) 16.5% ➡ 目標値(R12) 30%
			サイクリングルート沿線の休憩スポット(自転車の駅等)の充実	継続			
			サイクリストに対する支援策の実施	継続			
			プロスポーツや多様なメディアを活用した情報発信	拡充	◎		
			民間企業等と連携した自転車のまち宇都宮の周知啓発	新規			
			ターゲットに合わせた自転車のまち宇都宮の周知啓発	新規			

つなげる

自転車通行空間等の新設整備

①拠点間を結ぶ幹線ネットワーク

都市拠点や地域拠点、産業拠点、観光拠点間を結ぶ幹線道路を中心に形成し、道路ネットワークや公共交通ネットワークとの整合を図りながら構築

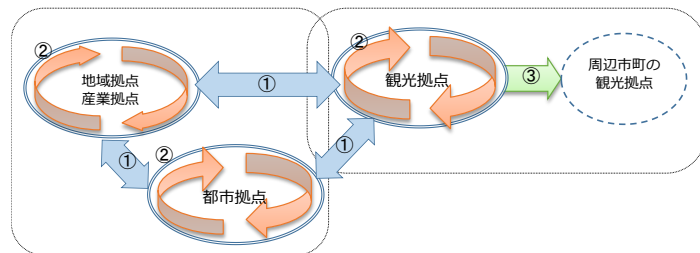
②拠点内を移動する地域ネットワーク

幹線ネットワークで結ばれる各拠点において、回遊性の向上や日常的な自転車利用の促進に資する路線により構成

③周辺市町を結ぶ広域ネットワーク

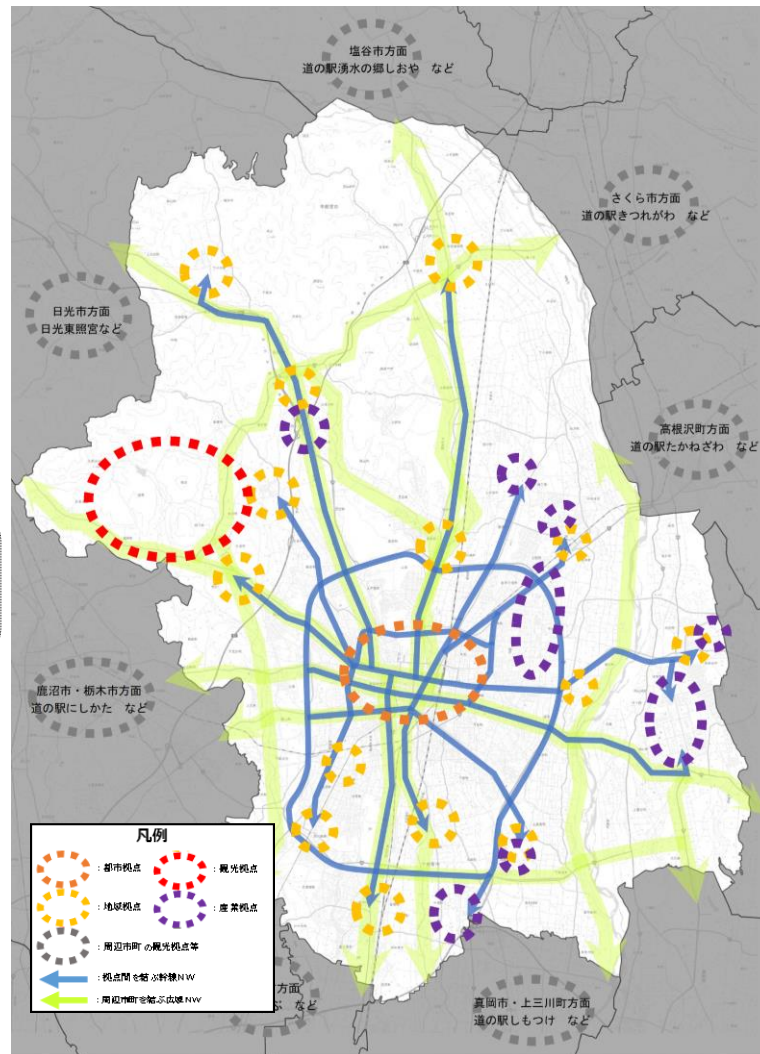
市内及び周辺市町の観光拠点等を結び、広域的な移動や回遊を支えるネットワーク路線により構成

自転車ネットワークの構成



ネットワーク構成	選定基準
① 拠点間を結ぶ幹線ネットワーク	都市拠点と地域拠点・産業拠点・観光拠点を結ぶ移動需要が高い路線
② 拠点内を移動する地域ネットワーク	- 公共交通にアクセスする路線 - 日常生活における自転車需要が高く見込まれる路線 - 自転車通学時の安全確保が必要な路線 - 観光拠点内等の周辺路線
③ 周辺市町を結ぶ広域ネットワーク	サイクリングロードや周辺市町へ跨るサイクリングルートとなる路線

自転車ネットワークイメージ



ライトライン停留場付近の駐輪場環境の向上

ライトライン駅東側の駐輪場について、利用状況を注視しながら、適宜、利便性の向上を図る。



路線バス停留所付近の駐輪場整備

NCCにおける地域拠点や人口が集積する幹線バス路線沿線など、主要なバス停留所付近に駐輪場を整備する。



みらいへ

学校やプロスポーツチーム、民間企業等と連携した交通安全教室の開催

小・中・高校生を対象に、交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらう交通安全教室等を開催するとともに、新たに動画等を活用した効果的な交通安全教室を実施する。

また、高齢者を対象として、警察と連携した自転車教室や自転車シミュレーターを活用した教室・イベント等を実施する。

企業等と連携した自転車通勤の促進

自転車通勤の促進に向け、自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和などの効果について周知・啓発を行うとともに、国の「『自転車通勤推進企業』宣言プロジェクト」の活用など、企業が主体的に自転車通勤に取り組む方策を検討し、企業等と連携した自転車通勤の促進を図る。

自転車の輪

宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース等の開催

「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上や地域経済の活性化のほか、市民をはじめ多くの方々に世界トップ選手の走りを間近で体感してもらうよう、アジア最高位の自転車ワンデーロードレース「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」等を開催する。

また、ライトラインの「R宇都宮駅西側延伸後においても「宇都宮ジャパンカップクリテリウム」を開催できるよう、競技団体等との協議を行う。

宇都宮ジャパンカップ等における参加型レース・イベントの開催

「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」等の開催に合わせて、幅広い世代が楽しめる参加型レース・イベントを開催し、多くの市民が身近にサイクルスポーツに親しめる機会を提供する。

プロスポーツや多様なメディアを活用した情報発信

宇都宮ジャパンカップや宇都宮ブリッツェンなど「自転車のまち宇都宮」を代表するイベントやプロスポーツチームをはじめ、TV・ラジオ・SNSなど多様なメディアを活用した市内外へ情報発信を積極的に行うことにより、本市の自転車に関する取組の認知度向上や「自転車のまち」としてのブランド力向上を図る。



つなげる

公共交通と接続する駐輪場が整備

公共交通と接続する駐輪場や学校
など目的にまでの自転車通行空間
が整備

歩行者や自動車と分離された
自転車専用の通行空間が整備

歩行者が優先される空間では、
自転車の通行が抑制

みらいへ

自転車のルール・マナーの向上
やヘルメットの着用率向上など、
自転車の安全利用が促進

歩行者・自転車利用者・自動車運転者
それぞれが相互に配慮した社会が形成

自動車からの転換が促進

自転車の輪

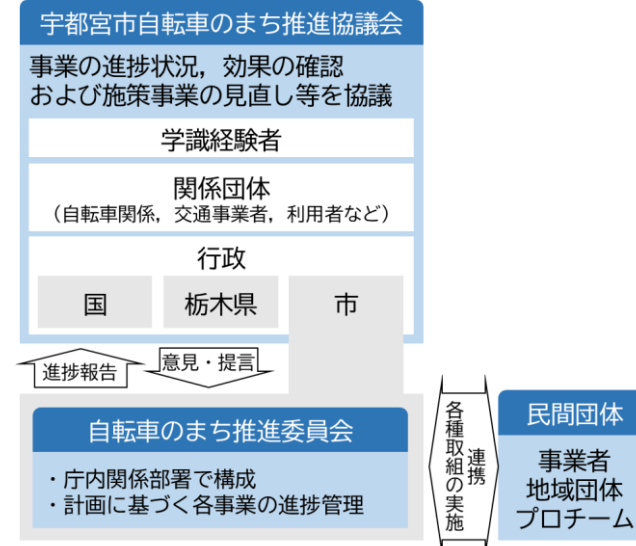
様々なサイクルイベントの実施により、
自転車を楽しむ多様な機会を提供

周辺市町と連携した広域的なサイクル
ツーリズムの推進により、河川沿いの
魅力が向上

宇都宮ジャパンカップやクリテリウム
の開催により、市内外から多くの人が
訪れ、賑わいが向上

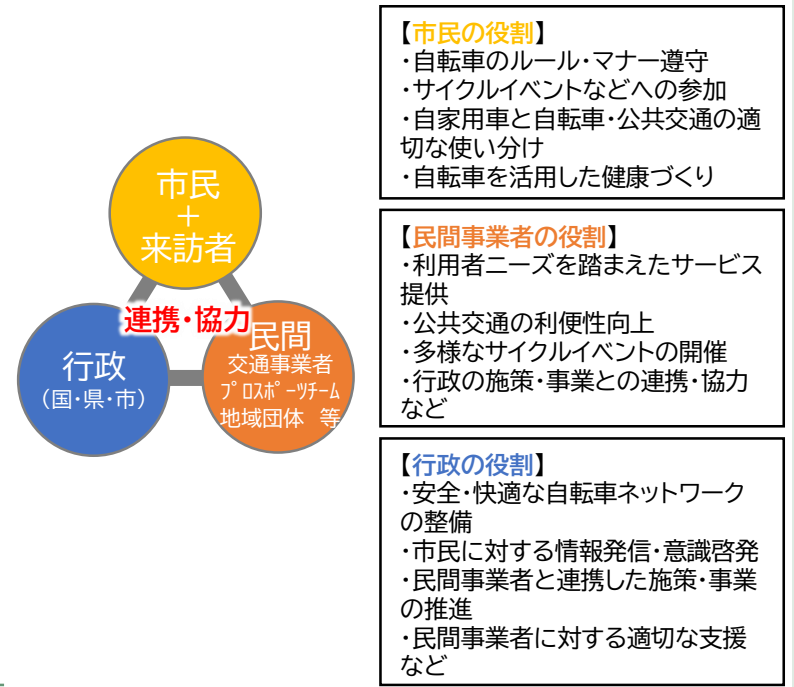
1) 推進体制

自転車施策に関わる多様な関係者で構成する「宇都宮市自転車のまち推進協議会」において事業の進捗状況、効果確認及び施策事業の見直し等を協議しながら、「自転車のまち宇都宮」実現に向けて、官民連携により各種取組を推進する。



2) 取組の進め方

事業に取り組むにあたっては、「市民」・「民間事業者」・「行政」がそれぞれの役割を踏まえながら、官民連携によって「自転車のまち宇都宮」を推進する。



3) 進行管理

本計画の進行管理にあたっては、PDCAサイクルの考え方に基づき、本計画（Plan）に沿った施策・事業の実施（Do）に対して、年度ごとにアウトプット指標等により進捗状況を評価・検証（Check）し、必要に応じて施策・事業の見直し（Action）を行い、着実な計画の推進を図る。

令和12年度には、アウトプット指標、アウトカム指標、計画全体指標の達成状況を確認するとともに、国の自転車活用推進計画や本市の上位計画の改定状況等を踏まえ、次期計画を策定する。

項目	本計画の計画期間					次期計画
	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
事業実施（D）	→	→	→	→	→	→
評価・検証（C）	データ取得	データ取得	データ取得	データ取得	データ取得	
施策・事業の見直し（A・P）		→	→	→	→	
計画全体の見直し（P）					→	改定